



# チーフストラテジスト 瀧山裕二の Weekly Letter

## 第4回「投資にまつわる英語のお話」

米国で1月27日に全米野球記者協会（BBWAA）のニューヨーク支部の主催で、昨シーズン活躍した選手、監督などを招待した夕食会が開催されました。ロサンゼルス・ドジャースに移籍した大谷翔平選手も招待され、英語での見事なスピーチを行い、満場の喝さいを浴びていました。

そこで、今週は株式や投資にまつわる英語についてお話しをしたいと思います。

### ～株式 = Stock、Equity、Share～

日本語で「株式」といえば、「株式会社に対して資金を拠出している（資本金に当たるもの）出資者の持ち分を表すもので株式会社の所有権の割合を示すもの」を意味する単語ですが、「株式」に変わる単語としては同じような単語で「株券」がありますが、「株式」との違いは明確ではありません。

一方、英語では株式を表す単語がたくさんあります。「Stock」、「Equity」、「Share」という単語が「株式」を表しています。なぜ、英語ではこのように多くの単語があるのでしょうか？それは株式のいろいろな特徴を表すためにそれに応じた単語が用いられてきたためだと思います。

例えば、「Stock」は「在庫品」、「手持ち品」から転じて、拠出した資金が株式会社の資本金となるため、「Stock」という単語が使われるようになったと考えられます。では「Equity」や「Share」はどうでしょうか？「Equity」は「公平さ」から転じています。「株主権」の一つである株主総会での決議に際し1株につき1票の割合で議決権を行使できるという平等な権利を表すために、「Equity」は使われるようになったと思います。「Share」は「共有する」から転じて、株式会社の利益に分配や解散時の残余財産の分配を受け取る権利を表しています。このように英語は単語一つ一つに明確な意味を持って使われています。

### ～投資家 = Trader、Speculator、Investor～

さて、われわれ投資家という単語は英語でどう表現されるのでしょうか？日本では株式や債券などの投資家を表す単語として「トレーダー（デイトレーダー）」、「投機家」、「相場師」、「投資家」などが使われています。しかしこれらの単語は証券投資を行っている人全般を表す言葉になっています。単語の意味が不明確、あるいは意識されずに使われていることが背景にあると思います。

# 西村証券

一方、英語の単語では「Trader」、「Speculator」、「Investor」と明確に分けられています。「Trader」は「商人、貿易業者」から転じて証券の売買を行い、利ザヤを稼ぐ人のことを表しています。「Speculator」は「思惑、思索」などを表す単語「Speculation」から転じて、思惑を張って大金を投ずる投機家や相場師を表します。最後に「Investor」ですが、これはズバリ「Invest=投資する」人、すなわち投資家を表しています。英語ではこのように投資の態様によって明確に単語が分かれています。

## ～Investorを目指して～

投資は時間をかければ相応の収益が得られる場合が多いと考えます。新NISA制度も始まり、資産運用に対する税制優遇措置も一層拡充されました。時間をかけて企業の成長に投資し、企業の発展、京都の一層の活性化、日本の復活を目指して、本来の投資家である皆様に情報を提供していきたいと思えます。